

祖母と約束した夢の舞台へ

二〇二二年射手

吉永昊志朗の挑戦

8月8日、吉永昊志朗君は流鏑馬保存会より正式に射手に任命されました。

昊志朗君が900年以上の歴史を誇る高山流鏑馬の大舞台へ名乗りをあげたのは、今年1月に亡くなった祖母との約束を果たすため。

「射手になって晴れ姿を見せる」

流鏑馬が大好きだった祖母との最後の約束を胸に、若き射手の挑戦が幕を開けました。



50日と2日

流鏑馬射手を目指して、長く厳しい練習の日々が始まりました。

練習が始まる前から、馬を育てている釘田義人さんの元へ訪れ、馬たちと交流し、準備万端の昊志朗君。練習が始まってからは、持ち前の運動神経を生かしてめきめきと上達していきました。

練習は順調かと思われましたが、時折、馬がなかなか走らないというアクシデントが。

しかし、それでも馬を信じ、練習に臨みました。

練習最終日、50日間毎日が本番のように緊張したと話す昊志朗君。本番に向け、「後射手の結希君みたいに走れるように人馬一体となって本番に臨みたいです。」と決意を新たにしました。10月14日、柏原海岸にて潮掛けを行い、保存会や駆け付けた同級生らと共に、射手と馬を清めたあと、四十九所神社へと帰ってきた射手2人は宮籠もりに入りました。

そして10月15日には、保存会が中心となり馬場づくりを行い、いよいよ当日を待つばかりとなりました。

